

多様な出会いや交流が生まれ、市民と職員が未来の熊本市を共に創ることができる庁舎

整備方針

- ・新庁舎の各所に交流・共創スペースを設置します。
- ・本庁舎は、「憩いと賑わいにつつまれ、新しい“何か”が生まれる空間」を目指します。
- ・中央区役所は、「人、場所、想いをつなぎ、まちに動きを生み出す空間」を目指します。
- ・本庁舎低層階には、文化的処方箋の拠点を設置します。
- ・災害時は、一時的な避難場所や臨時窓口設置等に活用することを想定します。
- ・夜間や閉庁日の開放や民間活力の導入、事業スキームについて検討します。

(参考)第2回分科会資料より抜粋

	本庁舎	中央区役所
方向性	憩いと賑わいにつつまれ 新しい何かが生まれる空間	人、場所、想いをつなぎ まちに動きを生み出す空間
空間イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・敷居が低く、用事が無くてもいつでも気軽に寄れる ・周辺施設と調和し、憩いにも賑わいにもフレキシブルに使える ・多様な交流が生まれ、市民と職員がつながり、共創できる場 	<ul style="list-style-type: none"> ・場所をつなぎ、まちに回遊を生み出す ・区民の交流と活動の場 ・周辺地域や市民活動を含め様々な情報を発信する場

※すべての人が利用しやすい(インクルーシブデザイン)
※災害時にも役立つ(一時的な避難や臨時窓口設置などの活用を想定)

(1) 本庁舎の交流・共創スペース

■方向性

憩いと賑わいにつつまれ、新しい“何か”が生まれる空間

■具体的な機能・用途

敷居が低く、用事が無くてもいつでも気軽に寄れる

- ・ 入りやすい雰囲気で開放感のあるエントランス
- ・ 飲食、休憩、会話など自由に使えるスペース
(カフェ・コンビニ等利便施設の併設も検討)
- ・ 読書、自習、コワーキングなどに使える落ち着いたのあるスペース
- ・ 熊本城を一望できる屋上
- ・ 子育て世帯も気軽に立ち寄れるこどもが遊べるスペース

周辺施設と調和し、憩いにも賑わいにもフレキシブルに使える

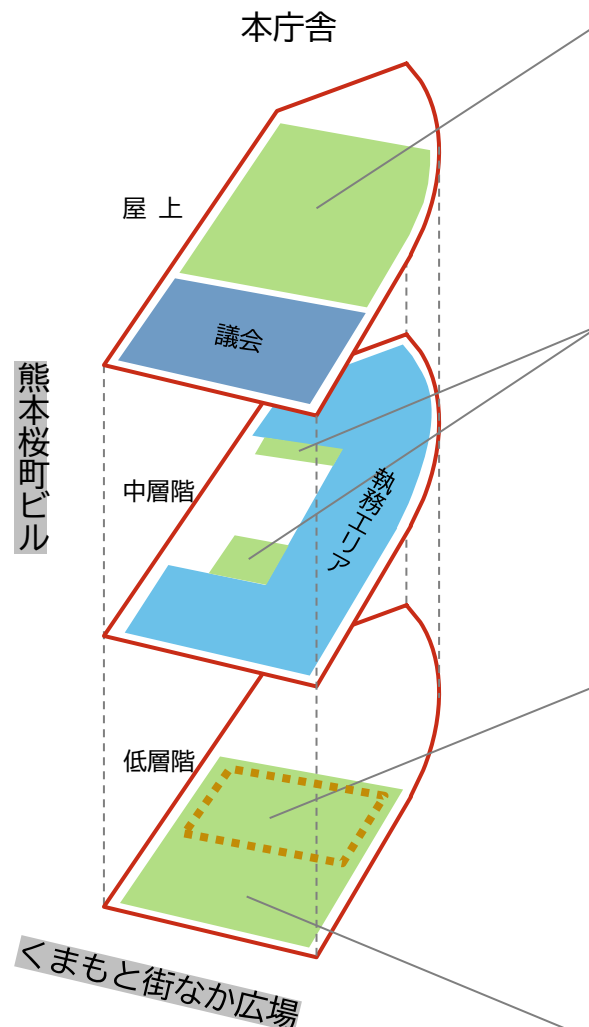
- ・ くまもと街なか広場等の周辺施設と連携でき、イベントや式典等を開催可能な多目的に活用できるスペース・半屋外スペース
(イベントがない時は、休憩や待合などに利用できる)
- ・ 熊本桜町ビルと調和し、水や緑など熊本らしい自然を感じる庭園

多様な交流が生まれ、市民と職員がつながり、共創できる場

- ・ 市民と職員の共創の場として会議や作業などが行えるスペース
- ・ 市政や観光などの情報を発信するスペース

■配置・規模感のイメージ

…交流・共創スペース



*フロア内の執務エリア等の配置構成はイメージであり、具体的な配置は基本設計段階で整理を行います。

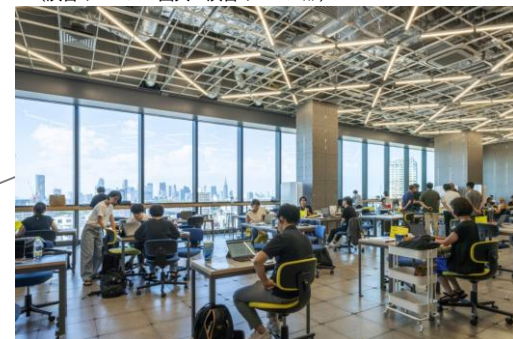
＞屋上庭園・キッズスペース
(サクラマチガーデン 出典：熊本桜町ビル提供)



＞打合せスペース
(横浜市本庁舎市民協働推進センター 出典：横浜市HP)



＞共創スペース
(渋谷キューズ 出典：渋谷キューズHP)



＞オープンスペース、イベントスペース
(川崎市本庁舎アトリウム 出典：川崎市HP)



文化的処方箋の拠点（本庁舎低層階に設置）

- ・文化芸術（アート）の活用（処方）によって、心の安定や社会的なつながりを促進しようとする取組である「文化的処方」の活動を新庁舎に取り入れ、人や地域がつながることによって新たな価値や関係を生み出し、一人ひとりがいきいきと暮らせるまち創りを進めます。
- ・特に本庁舎の低層階を、文化的処方箋の「拠点」と位置づけ、交流や会議など用途に応じ自由にレイアウトを変更できるスペース等の設置により、市民や職員が対話により交流し共創できる場「未来の熊本市をつくる広場」をつくりま

憩いと賑わいにつつまれ、
新しい“価値観”が
生まれる空間

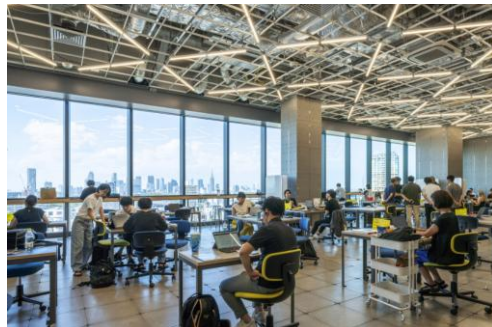
未来の熊本市をつくる広場（日比野文化顧問が考えるイメージ・スケッチ）

- ・熊本市のことを語り合いたくなる広場
- ・市民と市役所職員と一緒にウェルビーイングの種を共創できる広場
- ・新庁舎の目指すべき姿（3つの視点）※ を実現する人が育つ広場
- ・人が互いに育成（気づき、想い）する作用が自然に生まれてくる広場
- ・ここで生まれた発想が熊本市の未来につながることを夢見れる広場
- ・市役所職員のやる気が得られる広場
- ・新しい社会のイメージが生まれる広場
- ・多様な人と出会い、他者の魅力を受け入れ、異なる魅力を他者へと伝えられるような広場
- ・熊本市から世界の未来が見えてくるような広場

※熊本市新庁舎整備に関する基本構想 ―新庁舎の目指すべき姿（3つの視点）―

- 1 あらゆる災害に対応できる庁舎
- 2 市民が利用しやすく、質の高い行政サービスが提供できる庁舎
- 3 まちの賑わいに貢献し、まちづくりの核となる庁舎

➤ 空間イメージ（誰でも使いやすい、フレキシブルに使える、交流しやすい、アイデアが生まれやすい）



渋谷キューズ 左:スクランブルホール 右:プロジェクトベース 出典:渋谷キューズHP



(2) 中央区役所の交流・共創スペース

■方向性

人、場所、想いをつなぎ、まちに動きを生み出す空間

■具体的な機能・用途

場所をつなぎ、まちに回遊を生み出す

- ・歩行者が立ち寄り、観光情報等を見ながら休憩できるスペース
- ・居心地の良い歩行空間により回遊を生み出すピロティ
- ・周辺施設や商店街等と連動したイベント開催やマルシェ開催も可能な多目的に利用できるスペース

区民の交流と活動の場

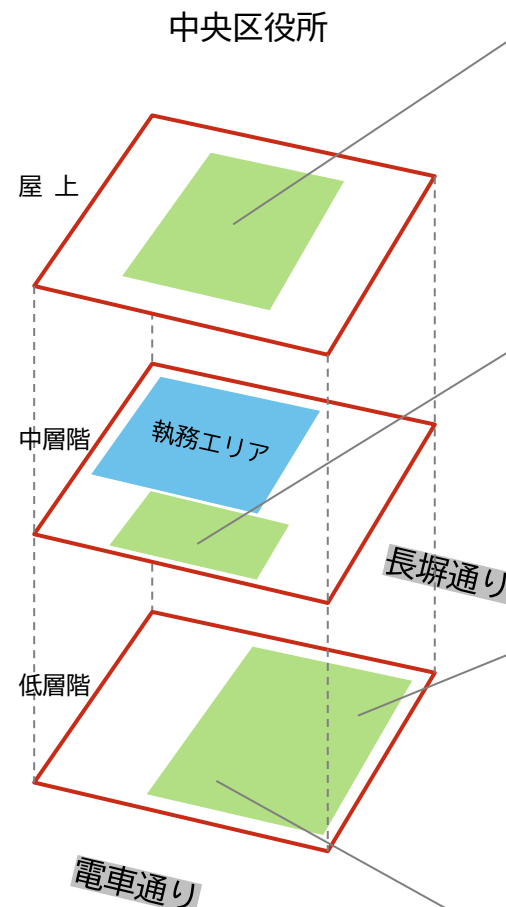
- ・区民活動や区民と職員が交流や共創できるスペース
- ・熊本城を眺めながら区民活動ができる屋上
- ・待ち時間などに利用可能なこどもが遊べるスペース
- ・読書、自習、飲食など自由な過ごし方ができるスペース
(カフェ・コンビニ等利便施設の併設も検討)

周辺地域や市民活動を含め様々な情報を発信する場

- ・熊本の歴史や震災、区の取組等を知ることができる情報コーナー
- ・イベントや区民活動へ参加を呼び掛ける掲示等が可能なスペース
- ・区民活動の成果を展示・発表できるスペース

■配置・規模感のイメージ

…交流・共創スペース



*フロア内の執務エリア等の配置構成はイメージであり、具体的な配置は基本設計段階で整理を行います。

>屋上広場
(おにクル屋上広場 出典：茨木市文化・子育てHP ©Nacasa & Partners Inc.)



>交流ラウンジ
(越谷市本庁舎市民ラウンジ 出典：越谷市HP)



>情報発信・展示スペース
(長崎市本庁舎情報発信コーナー 出典：長崎市HP)



>市民活動スペース
(中野区庁舎シェアノマ 出典：中野区HP)



(参考)市民意見聴取の状況(令和7年度)

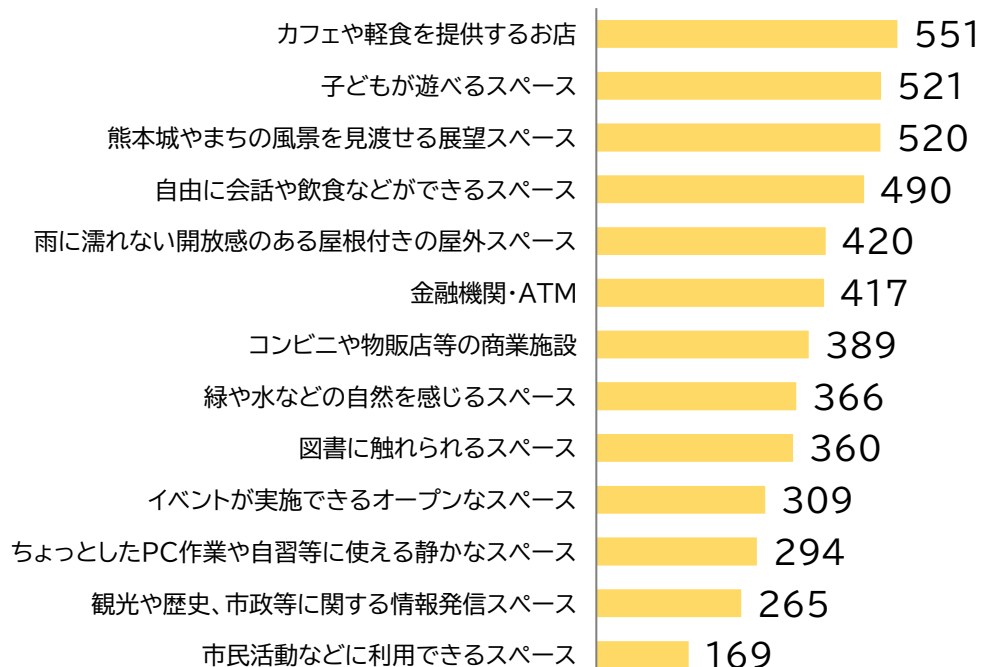
(1) オープンハウス

開催場所(開催日):花畑広場(5月3日・4日)、サクラマチクマモト(5月7日・8日)、
本庁舎(5月12日・13日)、上通(5月31日)、下通(6月8日)、
ゆめタウンはません(9月20日・21日) [計10日間]

参加者:1,702人

市民利用スペースに欲しいもの(シール投票)

「カフェや軽食を提供するお店」が551件で最も多く、次いで「子どもが遊べるスペース」(521件)、「熊本城やまちの風景を見渡せる展望スペース」(520件)、「自由に会話や飲食などができるスペース」(490件)の順となっている。



(2) アンケート

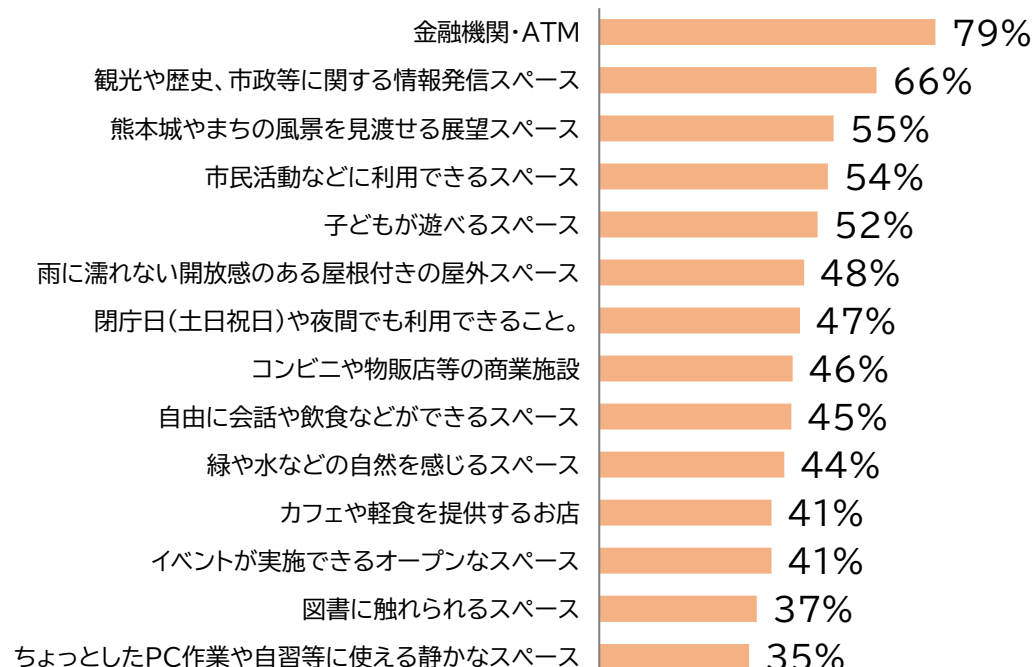
対象:本市在住で満18歳以上の方を無作為抽出
調査期間:5月20日～6月10日
回収数:742票



市民利用スペースに導入する機能の重要度

※「とても重要」、「重要」と答えた方の割合

「金融機関・ATM」が79%で最も多く、次いで「観光や歴史、市政等に関する情報発信」(66%)、「熊本城やまちの風景を見渡せる展望スペース」(55%)、「市民活動などに利用できるスペース」(54%)の順となっている。



(参考)市民意見聴取の状況(令和7年度)(つづき)

(3) ワークショップ

参加者:本市に在住又は通勤・通学する高校生以上の方 各回約30名(公募)
テーマ

第1回「まちなか庁舎を語ろう！」(6月15日)

新庁舎を契機としたまちづくりについて考えるとともに、
その中での新庁舎に求められる役割を考える。

第2回「新庁舎をどう使う!？」(7月6日)

本庁舎、区役所それぞれについて、
過ごし方や求められる空間・機能をイメージする。

第3回「新庁舎の未来を思い描く！」(8月3日)

<グループワーク内容>

これまでの成果を振り返り、本庁舎・区役所それぞれの市民利用スペースの役割について整理。その役割や建物の構成、立地特性等を踏まえ、市民利用スペースに必要な空間・機能について話し合い、意見をまとめる。



→ <グループワーク成果>

テーマ① 市民利用スペースの役割

本庁舎

皆が楽しめる憩いの場/夜間も使えるスペース/いつでも使える7/7/防災に役立つ/ネーミングで親しみやすく/観光の拠点/情報の発信と受信(歴史・文化・地理・まちでの活動)/集い・交流の場/フレキシブルに使える/敷居が低い/熊本にきた人に文化歴史を発信し交流できる/何かしたい人を後押しする(観光・市民活動・企業スタートアップ等)/熊本愛(誇り)シビックプライドを育む場所(むかえ入れる本庁舎)

区役所

区民が憩う交流スペース/観光案内・長堀通りから本庁舎方向の回遊性をつくる/市民が話し合い活動を行える場/機能を特化させる/地元住民が情報・学びを得る/地元(区)の人達の交流や情報を発信/熊本LIFEをエンジョイする場所(つつみ込む区役所)

テーマ② 必要な空間・機能

本庁舎

屋上部

こどもの遊び場/カフェ(夜も営業)/サクラマチと接続/銭湯(災害時も)/ハリポート/自習スペース

共通で出た意見

展望スペース(熊本城)/屋上庭園

区役所

屋根付きスペース/休憩スペース/会議室

中層部

サクラマチと接続/待ち時間を楽しく/行政サービスと市民が連携

自習スペース/情報発信スペース/コンシェルジュ(各種案内)

こどもの遊び場/コワーキングスペース/会議室

低層部

こどもの遊び場/水を感じる/フリースペース/コワーキングスペース/カフェ/会議室/シャワー(災害時も)/展示ギャラリー/サクラマチと接続/イベント利用(保護猫等の譲渡会など)

情報発信スペース/商業利用スペース/休憩スペース/オープンスペース(屋根付き)/クーリングシェルト/自習スペース/図書

多方向に出入口/多目的活動スペース/長堀通りとのつながり/多世代憩いの場/ドライブスルー手続き/市場(マルシェ)/ホワイトボードの壁/駐車場(障がい者用)/チャレンジショップ